



ニュースレター限定 社長コラム

『AIの伸展で感じること』

代表取締役 近藤 千奈美

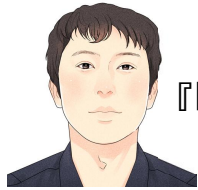
先日ユーチューブを見ていたら、2026年1月に米国ラスベガスで開催されたCES（コンシューマー・エレクトロニクス・ショー）について感想を語っている方の動画に遭遇し、思わず見入ってしまいました。

2024年に実際に参加した時と比べて、ヒューマノイドロボットが数多く展示され、産業用の特定動作向けのものから、ボクシングやダンスをするワイヤレス型まで、用途が大きく広がっていました。AIとロボティクスの融合技術は、人口減少に直面する日本や多くの国々にとって、労働力不足を補う希望となる一方で、「働くこと、生きること」の意味を根本から考え直す転換点になってきたと感じます。

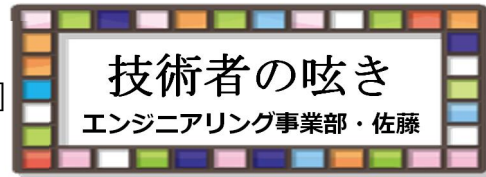
コンテックスでは物理的なロボットは使っていませんが、業務効率化ツールという形でAI技術を小さなスケールで日々活用しています。それによって、時間効率については以前より格段に改善されている実感があります。

いつの時代も技術は人の生活を便利により豊かにしてきました。馬車から船、機関車、電車や自動車、飛行機、そしてドローンへ。AIそしてロボットとの融合は今後、どのような位置づけになるのでしょうか？





『「パチッ」とくる季節』

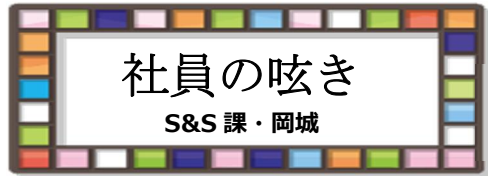


エンジニアリング事業部の佐藤です。

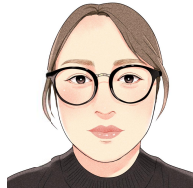
この時期、私が毎年悩まされていたのが「車のドアの静電気」です。パチッという衝撃が怖くて、いつもビクビクしながらドアを閉めていました。

そんな時、100円ショップで出会ったのが「静電気除去キーホルダー」という優れもの。車のドアに触れる前に、このキーホルダーで軽くタッチするだけで体内の静電気を逃がしてくれます。

このアイテム一つで、冬の小さなストレスが解消され、運転が快適になりました。



『年賀状』



本日は2026年の最初のご挨拶に使う写真のお話。

衣装を着せて、おやつを手に持ち撮影。

撮れた写真は、お正月に合うように、全社勉強会で皆さんと一緒に触れたGeminiを使って加工。

背景を金屏風にしてもらったり、赤い絨毯にってもらったり、日本庭園風にしてもらったり…皆さんも機会があればぜひ試してみてください！



ニュースレター限定 営業マンのコラム

『利用と依存』

グローバルビジネス事業部 後藤 (Mr.ベースマン)



この頃一日が短いと感じる人が多いのではないのでしょうか？

私は年齢のせいだよ、と周りに言われていましたが、若い人たちも日々の短縮感を感じているようです。

この原因はどうか情報過多によるもので、平安時代の人的一生分の情報に私たちは毎日触れているらしいのです。そりゃ人生いくつあっても足りないぐらいの速度に感じますよね。

これからナノテクが発達すると電腦標準装備時代になるのでしょうか。機械の身体に載った精神はいったい存在することになるのでしょうか？

便利になると、その分失われるものもあります。携帯電話の登場で、電話番号を暗記することが不要になり、それによって語呂合わせのセンス（おやしギャグのセンス）を失いました。（笑）スマホになると、地図の読み方、予定の記憶、時刻表の読み方等が失われました。

今やAIが日常生活に取り込まれ、考えることを失おうとしているように感じます。便利に利用するのは良いことですが、依存してしまうと後戻りが出来なくなってしまうます。

気を付けたいですね。

とスマホ依存症（スマホに頼りきって次のライブ予定すら覚えていない）の私が申しております。



思考停止

教えて！

翻訳 Q&A



Q: 冬季オリンピック関連の英語表現を学びたいです。

A. ミラノ・コルティナオリンピックが2月に開催されます。この期間頻繁に見聞きしそうな英語を紹介していきます。

amplitude

スキー、スノーボード競技において「高さ」を意味し、U字型のコースを滑る種目で主に登場します。物理学では「振幅」という意味で用いられる言葉で、波のようにダイナミックに上下を移動する選手の様子が思い浮かびます。

redemption

スポーツ関連の文脈では「雪辱、名誉挽回」という意味で用いられます。日本人がよく使う「リベンジ (revenge)」は攻撃的なニュアンスが含まれるため、スポーツの感動的な場面では“redemption”の方が好んで使われます。

podium sweep

金・銀・銅のすべてのメダルを同一国、あるいは同一チームの選手が占める快挙を指します。“podium”は「表彰台」を指し、“sweep”は「連戦連勝」という意味もあり、野球などでもよく登場します。

pinnacle

「頂点、最高峰」を表し、世界的なスポーツイベント等でよく見聞きします。単に“top”と言うよりも威厳があり、ドラマチックな響きになります。

stick the landing

「着地を決める」という意味の熟語で、ジャンプ系の競技で頻出します。ビジネスの場面でも「上手く締めくくる・成功に導く」という意味合いで使うことができます。

今回の大会では 100 を超える種目が実施される予定です。

それぞれの競技の独特な英語表現に注目しながらオリンピックを味わうのも楽しそうですね。



コンテックス HP
下記 QR コードまたは
『技術翻訳
コンテックス』で検索！



HP にバックナンバーが
掲載されています♪